

(別紙様式 小中学校用)

平成21年度指定 新しい職を活用した研究モデル校 研究報告書

学 校 名 高知市立一宮中学校

学校長名 山中 正男



|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 研究テーマ          | 主幹教諭が機能する組織作りと PDCA サイクルの確立                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 2 研究内容           | <p>①主幹教諭による教育課程工夫改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 授業時数の確保と移行処置の効果的な運用を行い学力の向上を図る。</li><li>・ 運営委員会及び研究推進委員会をより機能させるための工夫を行う。</li><li>・ PDCA サイクルで、特に A (改善) を意識し新たな P (計画) づくりを行う。</li></ul> <p>②主幹教諭による教員の指導力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒会活動の活性化を図るための提案、助言を行う。</li><li>・ 家庭学習時間 0 をなくすよう研究主任等に助言できる組織作りを行う。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 3 新しい職の配置による組織体制 | <p>組織の改善点や現在の組織体制等</p> <p>校内の校務分掌に関して、教頭の下に大きく以下の2つの領域に分割して2名の主幹教員が担当する</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒指導を含めた学年の動きに関する総括として1名</li><li>・ 研究に関する統括として1名</li></ul> <p>これによって、現状校務分掌について大きな変革を伴わずに学校長や教頭の指示を受けて生徒指導面と研究面の担当教員を指導・援助する態勢を取っている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 4 新しい職の活用状況      | <p>①主幹教諭の担当職務、校内での位置づけ及び活用状況等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 生徒指導を含めた学年の動きに関する総括している主幹は、生徒指導委員会のメンバーとして生徒指導主事とタイアップして主要な問題行動に関する手だてや指導経過として3年先から将来を見通したプラン作りと対応の仕方等について支えている。また、各学年主任へのアドバイスや助言・指導もおこない学年運営にも力を発揮している。また運営委員会のスムーズな進行のために「改善」という視点で積極的な提案も行っている。</li><li>・ 研究に関する統括している主幹は、教育課程の移行に伴う研修や運営委員会への提案・資料提示などをおこなっている。研究推進委員会に関する運営では、授業研究の全校態勢で行う校内授業研究を主として授業力向上のポイントとなる導入部分にスポットを当てた授業研の実施にあたっている。</li></ul> <p>また、進路指導や進路事務等の仕事にも関わっている。このために、研究紀要「せんだん」・教育計画の作成と改善に伴う研修アドバイスをを行っている。また、家庭学習定着に効果的な運営の提案やデータ管理を行っている。生徒会活動においては、生徒会担当教員とタイアップして生徒の提案を最大限に生かす行事づくりや改革案について取り組んでいる。</p> |

## 5 具体的な取組

- ・ 自主学習能力アップをねらって10分間の一宮 TIME を設けた。これによって、国社数理英を中心に基礎学力や読解力・基礎知識を重点的に取り扱う時間を確保できたことで、家庭学習の充実と基礎学力の向上に効果がでてきている。また、家庭学習0時間をなくす運動も実施した。
- ・ 家庭学習への取り組みとして、家庭学習が効果的に実施できていない生徒については固定化されており、家庭との連携が難しい。また、学力向上の方策として小中連携の視点は今後の重要な課題と位置づけることができる。
- ・ 生徒会の活性化について、昨年度から3年計画で取り組んでいる活動テーマとして国際協力に目を向け、全校生徒に呼びかけてラオスの生徒への学習支援のための協力金を募り、国際支援に取り組んだ。支援の結果、現在も「ケン君の通学」が実り継続されていることの報告会も実施した。さらなる課題としては、既存の委員会の活性化に関する日常活動の意味づけや教員や生徒の意識改革が課題ではないかと考える。
- ・ 現在、日々の生徒の問題行動の処理や効果的な指導について協議し、組織として対応しているが、支援を必要な生徒が多くみられ対応に苦慮している状況がある。将来的見通しをもった組織的対応と教員の指導力向上に努めている。また、学校運営面では、来年度の生徒の学級編成や教員の学年団編成に関して大きな課題を抱えていることが学校運営上の大きな重要課題として捉えている。

## 6 研究の成果

- ・ 学校組織の核となる運営委員会や研究推進委員会を充実させ、「改善」という視点で積極的な提案も行い系統的・組織的な取り組みがよりスムーズになった。また、教員の指導力を研究授業・各種研修会・職員会・学年会・日々の教育活動等で意識的に指導、助言することにより、学校経営方針の具現化、学校教育目標や校内研究主題の目的達成に近づけたと思われる。また、学年運営・進路指導にも力を発揮している。
- ・ 学力定着への取り組みとして、学力向上サポーター・放課後学習支援員・中学校学力向上補助員・児童生徒支援員の活用による夏休み・冬休み加力指導教室の実施「ゆっくりコース」・「ジャンプコース」の午前・午後2時間。放課後の補習教室1時間の実施。家庭学習0時間をなくす運動の実施など具体的な取り組みができた。
- ・ 生徒指導を含めた学年の動きに関する総括では、生徒指導主事とタイアップして主要な問題行動に関する手だてや解決を行った。また、将来を見通したプラン作り対応の仕方等についての指導や助言も行った。
- ・ 生徒指導体制（教育相談、生徒指導）では、Q-Uの定期的な研修による活用や、効果的なチーム支援体制の構築ができた。

## 7 課題の分析と考察

- ・ 学習慣確立プログラムは、計画期間満了後の現場対応として、家庭学習への支援についてどのようなことができるのかを具体的に提示できる内容を検討し、具体策を作成する必要がある。また、現在の状態で家庭学習実施に取り組むことが、日課の一つとして位置付きにくい生徒への手だてについて、その分析と具体的方策は今後の課題となっている。
- ・ 今年度の行事計画にしたがって実施できた内容は、それぞれの部会で行った分析や新たな課題の把握に対して来年度への申し送り事項（教育課程・研究テーマ・生徒指導体制・各行事計画・生徒会活動等）として、教員団の組織から始まり申し送り事項の内容を十分理解したうえで新しいスタートができるように準備する。

- ・ 各会合の活性化については、原案づくりの段階で十分な相談と必要な準備を行うことで、現状認識と展望をもって、完成度の高い原案作りに努めることが重要になる。
- ・ 生徒会活動では、年間計画の精選を含めて、生徒の自主的な活動内容の妨げることなく支援し、生徒会役員の活動が、各生徒への有用な活動につながる組織立てを考え、専門委員会の日常的活動と学年および全校行事に関わる内容とを区別して取り組みをしていく。
- ・ 各教員の担当している役割について、次の担い手を見据えて組織編成を考え、サポート態勢を整えていくことは、今後の組織活動を継続していくためにも重要なことである。

※ 各欄は、必要に応じて広げてください。